

平和学習充実に力

広島での学び 中3の修学旅行に

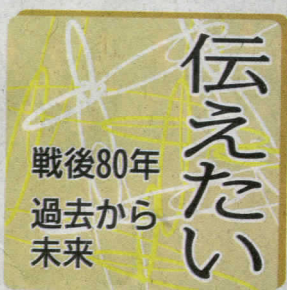
町追悼式も学年全員参列へ

富士見町教委



広島平和記念資料館で被爆の実態を学ぶ3年生（富士見中学校提供）

富士見町教育委員会は近年、中学生の平和学習の充実に力を注いでいる。従来は2年の代表生徒数人を広島市での平和記念式典に派遣してきたが、昨年度から修学旅行に組み込み、3年生全員で広島市を訪問、原爆被害者の生の声に学んでいる。校内で戦争、原爆関連のパネル展や広島から被爆証言者を招いての講話なども行っており、今年は町の戦没者追悼式に初めて3年生全員での参列も計画している。（日比野真由美）



修学旅行は従前の奈良・京都からさらに広島へ足を伸ばす旅程にし、今年度は今年20日に出発。原爆ドーム、広島

平和記念資料館を訪れ、被爆者から壮絶な体験を聞いた。広島電鉄の計らいで被爆した現役路面電車にも乗った。校内でのパネル展は、第二次世界大戦と原爆攻撃、被爆のむごたらしさなどを写真と解説文で伝えるものを外部から借り受けて多数並べ、生徒の自主的な学びにつなげた。これら学習の充実で「目を背けたくなるつらく悲しい歴

史と向き合い、生徒自身が『平和のために何ができるか、何かしなくては』という視点と主体性を持てたことが大きい。実践への意欲も高まっている」（丸山博校長）という。

町教委子ども課の名取淳二専任課長は「現地でしか学べないことは多い。世界唯一の被爆国として実態を知る機会を多感な学生時代に作ってあげたい」と話す。

町主催の戦没者追悼式への

3年生全員での参列は同校たつての希望。これまでは広島派遣の代表生徒が参列し、研修で感じたことや思いを発表するのが長年の慣例だったが、丸山校長は「平和を祈る気持ちを参列者、町民の皆と共有したい」と願いを込める。高齢化で参列者数が年々減り、戦争の記憶の風化に遺族が焦りをにじませる中、「痛ましい歴史と教訓を次代につなぐ光明（町）」となりそうだ。